

# 青田の主張

令和4年8月1日発行

## 光ファイバー網をもっと有効に使おう！

現在、町では防災無線の次に来る、住民向けの情報ツールを検討し始めているようです。どのように町のデジタル化を進めるのか？私も大きな関心を持っています。

先日、東京から来町されたある企業の方に色々とお話を伺うことができました。他の自治体の事例を調べると、例えば月形町ではIP告知端末と、IP告知端末同等の内容を配信可能なスマートフォンアプリ「JC-Smart」を活用し、災害時の対策や、地域DXの一環となる町内のデジタル化に取り組み、障がい者や児童生徒も有効に活用しているようです。月形町は、全戸にFTTHが設置（基地局から各家庭まで光ファイバーが繋がっている）されていることから、このようなシステムの導入が可能だったのでしょう。

政府の「デジタル田園都市国家構想」の基本方針では、2027年度末までにFTTHを99.9%の世帯へ普及させ、同じく「5G」などのインフラを、2030年度末まで人口カバー率99%達成させるなどの構想を掲げてきます。

デジ田（デジタル田園都市国家構想）は、地方の魅力をそのままに、都市に負けない利便性と可能性を目指していくことを想定しています。

途切れ途切れになり受信できることもある防災無線から、いつでもどこでも必要な情報を、誰もが入手できるようなシステムを、民間の協力と国の交付金や補助金等を上手に使ってできないものかと考えています。現在、町では防災無線の次に来る、住民向けの情報ツールを検討し始めているようです。美瑛町の将来のために、もっと光ファイバー網を有効に使っていく必要があります。

月形町のIP告知システム導入事例→



内閣官房デジ田関係資料→

